

轉法輪

寶年 三新 禮賀 敬謹



弘の戒を守るは
人に豊かさ
と
うるおいを
与
う
弘法大師

平成二十六年元旦発行
発行所 犬飼山 轉法輪寺
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七二一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七二七
編集発行人 桑山慈紹
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

あけまして

おめでとうございます

新しい年を迎え

皆々様のご健勝とご多幸を
心よりお祈り申し上げます

初詣にお参り下さい

十二月三十一日(火)

除夜の鐘

一月一日(水)・二日(木)

甘酒接待

一月三日(金)九時半より

お鏡開

ぜんざい接待

平成二十六年 甲午 元旦

犬飼山轉法輪寺

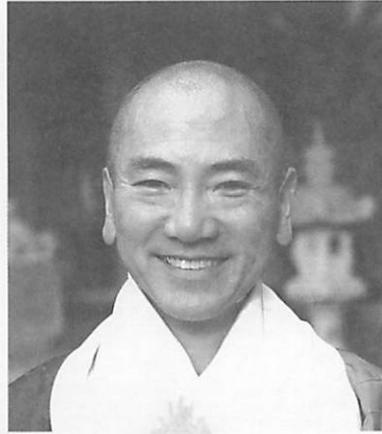
名誉住職 桑山聖規

住職 桑山慈紹

後住 桑山聖淳

新年のご挨拶

住職 桑山慈紹



新年あけまして

おめでとございます。

旧年中は大変お世話になりました。

本年も宜しくお願い申し上げます。

さて来る平成二十七年度は、高野山

御開創一二〇〇年と同時に、大師明神

御邂逅一二〇〇年の聖年を迎えます。

殊に当山は、大師明神御邂逅の霊場と

して準備中であります。

弘法大師と狩場明神が会われたこ

とは、仏教と神道の出会いであると

いっても過言でないでしょう。それは、私達日本人の精神的支柱が、神と仏にあることを象徴的に示した出来ごとであります。この出会いがやがて、各家庭に於て仏壇と神の社を祀り礼拝し、安心立命する姿に発展した一因とも申せましょう。神と仏が仲良く守護する美しい国、それが日本であります。

今年は午年です。午は方位では南方、時間では、正午を中心とする二時間です。最も陽気盛んな今年を、大師、明神に日頃のご加護を感謝礼拝し、檀信徒各家皆様のご健勝と御多幸、更に家内安全と開運如意を、心よりご祈念申し上げます

合掌



平成 26 年度

四国八十八ヶ所巡拝

募集中!!

伊予(愛媛県)一国まわり
第44番 大宝寺より 第70番 本山寺まで

日時：平成26年3月29日(土)～
4月1日(火)

3泊4日 バス
定員 40名

費用：65,000円



秋の巡拝は讃岐一国(香川県) 四国巡拝満願となり、高野山お礼参りとなります。

方位の吉凶

住職 桑山慈紹

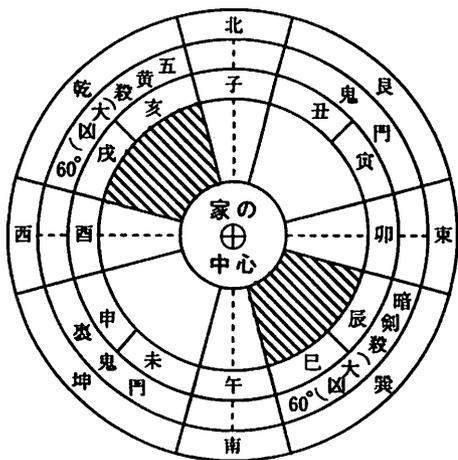
平成二十六年 甲午年 きのえうま

新年あけまして

おめでとうございます。

平成二十六年度甲午（きのえうま）は四緑木星が中央に巡ります。よって本宅中心（または自分の寢室）より東南（辰巳・六十度）に暗剣殺、北西（戌亥・六十度）に五黄殺、歳破神が北（子・三十度）に巡り、老若男女を問わず大凶です。

家相方位盤



これらの方位に今年、新築・増改築・土木工事・開店・結婚・出産・長期旅行・就職・進学・転宅・契約等々は極力避けるのが賢明でしょう。

暗剣殺とは何か？

暗剣殺とは、読んで字の如く、暗闇から剣が飛び出して来て殺すということとで、ビックリするような災難が、外から急に鋭く深く激しく降りかかってくる方崇りをいいます。

五黄殺とは何か？

五黄殺とは、強烈な土に戻す作用を起す方崇りで、命を落とすか、財産をゼロにしてしまうこともありま。五黄殺の特徴は、暗剣殺とは対照的でゆっくりとしぶとく何度もあらわれ、向こう五十年間も崇ると恐れられています。

歳破金神

歳破金神とは、太歳神という神様と戦い、いつも負ける、所謂『負神様』で子（北）に位し、普請・移転・旅行・縁組を求めるは、凶といわれています。

本年の恵方（あきの方位）

本年の歳徳神は、甲（きのえ）東で恵方（よい方位）です。

新年を恵方位の神仏に祈るも有難いことです。

本来東方には、阿闍如来がいらっしゃいます。

ご真言に

おん あきしゅびやうん

とお唱えし、

南無大師遍照金剛

南無大明神

と唱えて、恵方の徳をいただきます。

方位を超えて

方位に吉凶があることは無視できません。方位の吉凶を知り、暦を上手に使うことが開運につながります。

新年を迎えて種々様々な計画をされていることと存じます。建築などのことでご不明な点がございましたら、家の平面図をグラフ用紙に正確に書き、磁石をふって南北線を記入した図面と、ご家族の生年月日を添えてお尋ねください。

生かせいのち

【第四十話】

名誉住職 桑山聖規



たいよくとくせいせい

「大欲得清浄」この言葉は、私たち真

言宗の僧侶が唱えている理趣経百字の偈にある、大切な一節であります。大きな欲は清浄だということです。生き物は欲により成長し、繁栄していきます。欲を捨てたら枯れ木のように減んでいくでしょう。欲を持つのは天から授かった自然の姿なのです。

仏教では①色欲、②食欲、③睡眠欲、④財欲、⑤名譽欲と五つの欲があると考えます。どれも自分を守り、子孫を残すために大切なものですが、度が過ぎると自他を害する結果になります。

私たち人間は欲により勉強も進み、産業は繁栄していきます。熱心な勤務で昇進を目指すのも良いでしょう。しかしここで自分の利益のみを考えて他人の不利を作るようでは亡者と言って、神仏の御心に叶いません。神仏は全てを我が子として、平等に恵み生かして下さっているのです。先号にも書きましたが、地水火風空(日月星)は無量で無限に、我らに施し生かして下さっているのです。この大自然が生命の親神であり、法身の大日如来なのです。

そう考えた時、すべての生き物は神の子であり仏の子です。それに感謝して神仏の御心を自分の心に入れてみると、自分を大切にすると同時に他人も、全ての者を大切にすると同時に他人も、えるのです。

小さな私欲よりも、全ての人が豊かで平和に生きていけることを考えて実行

する。それが大きな欲、大欲であります。

宗祖弘法大師は、国を大切に人を大切にされました。全国を巡錫して、水害で困る地方には堤防を築き、農業繁栄の基礎を作られました。四国の満濃池は千二百年の時が経っても人を生かし、喜ばせています。また全国のいたる所に「大師井戸」と呼ばれる井戸があり、大師の智恵の慈悲心が現世に生きています。また、天長元年に三ヶ月に及ぶ大日照りがあったと伝えられており、時の天皇は空海大師に雨乞いの祈禱を修すように勅命を出しました。それを受けた大師は京都の神泉苑で一心に祈念され、その結果三日三晩雨が降り続いたということです。

弘法大師の大欲は大日如来と一体になり、世界中が仏の心を抱き、拝み合い助け合う世界をこの世に作りたくと願ったのです。その無限の大欲を持って「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きならば我が願いも尽きなん」と大誓願を立て、ご入定されました。その誓願は如来の大慈悲といえるでしょう。

さて、平成二十六年は甲午年です。甲は東で太陽の昇る方角、午は南で日照の最大になる方角です。勢いの盛んな今年は大欲に置き換えて、我欲の小欲を大欲に置き換えて、幸福な年になるように努力していきましよう。神仏は必ずあなたを応援し、擁護して下さいます。

「草も木も

仏になれる仏木寺」

五條市新町

河崎 純子

三月二十九日からのお四国巡拝、春の旅はまるでお花見、どのお寺へお参りさせていただいてもお花に迎えられる嬉しいかぎりでした。

特に帰路の途中で道路の両側の土手に植えられてあった垂桜が満開でそれはそれは「美しく、美しい」の連続でどこまでもきれいな、きれいな」の連続でどこまでも

続く桜の花に感激し、こんなにも美しい桜に出合えたことは始めてで、一時でも主人を亡くした辛さも悲しさも忘れさせてくれました。本当に開花したばかりの桜のようでキラキラと輝いていて、あんなに素敵な桜に出合えたことはとても有難いことでした。

お四国やまるで浄土の花遍路

そして秋の巡拝、今回も天候に恵まれ、二度目という事も少し余裕があったのでしようか、伊予の国、四十二番の仏木寺で、板に書かれてあったことばに目が止まりました。

「草も木も仏になれる仏木寺…」という歌でした。「はて…」と考えていたのですが、ふと十数年以上も前の事を思い出したので。それは主人の両親の介護をさせてもらっている時の事です。

平成八年から二十二年までの十四年間のある日のこと、木枯が吹く冷たい朝でした。庭へ降りて行った時、その寒風の中一輪のそれはそれはかわいらしいピンクのバラが咲いてくれました。介護の疲れでどうにかかなりそう

日々、なさけない自分に、自分で自分を責め萎えそうになっていた時、この寒空の下で誰に誉められるわけでもなく、ごほうびをもらうわけでもないバラがだまって美しい花を咲かせてくれていました。その凛とした花の姿に私は恥ずかしくなり、不撓不屈の精神、くじけないで最後までやり遂げなければと、バラに気付かされ、教えられ、救われたのでした。

「草も木も仏になれる仏木寺…」その時のバラの花は私にとって仏様だったので。「バラさんありがとう。」とお礼を言つて家に入りました。お四国巡拝は、私にとつて大切な何かに気付かせていただけ旅のようです。ありがとうございます。



光を求めて

西吉野町和田 光明院

住職 岩井恵照

その四

お友達 一諸に学校生活を送り、一緒に唄を歌う内にクラスの中に溶け込み「ちよつと変わつてるけど仲間の一員として認める」そんな関係が育つてきたのです。

親学級の先生が出張したある日、障害児学級の岸本先生が親学級で授業した時のことです。岸本先生は孝憲をつれているので、退屈しないようにふりがなをつけて黒板に書いてみると、孝憲は次々と大きな声で読んでいったそうです。

そしたらある女の子が「岸本先生、孝ちゃんこんなに読めるようになって病氣治ってきたんやなあ」と言つたそうです。

岸本先生からこの様子をきいて、幼稚園の頃「おばちゃん、孝ちゃん何でようしやべらんの？」と聞くお友達に

「孝ちゃんはなあ病氣やねん、仲良うあそんだつてや」と答え続けた私の心を通じたというか、こんなやさしい眼でみてくれるお友達がいる、と思うと本当に胸が熱くなりました。地域の小学校を選んで良かったなあ。この選択は間違つていなかったなあ、と主人と喜び合いました。

幼稚園の子供達に《知的障害》をどのように説明したら良いのか解らなくて「病氣やねん」と答えていたのですが、その時の私の複雑な気持ち お解り頂けるでしょうか？

だつて病氣ならいつかは治る日が来るけれど、障害児と診断された孝憲には治る日は来ないのでから……。私どもはこのお友達の言葉でほのぼのとした気持ちになり、どんなに癒されたかたしれません。

仏様の心 孝憲は、小さい時からとても気がやさしく生き物が好きなので、犬や猫、鯉や金魚、亀やインコなどいろいろなものを飼いました。金魚を見て金魚の歌を唄い、餌をやりながら数をかぞえて、亀を見て亀の絵を描くなど何でも生きた教材になり、毎日が生き



大好きな岸本先生と
- 2年生の時の遠足 -

た勉強だつたように思います。

岸本先生は、孝憲を我が子のように可愛がり、体当たりでご指導下さつたので、まるで学校のお母さんのように慕うようになっておりました。

そんなある日、猫が金魚を狙っている絵をみせてお話ししよう、と促したそうです。すると孝憲は「猫さん金魚さん 欲しい 欲しい 言うてます」と話したそうです。

歩かない、しゃべらないと夜も眠れない程心配しましたが、接続詞こそありませんが、画の様子を十分に表現しています。岸本先生も「やさしい表現ができました」と感心しておられました。《次号に続く》

永代供養会 嚴修

去る 12月6日

約300の方がお参りになり
供養会が嚴修された。

11時より、アーサー・ビナード氏により、

「ことばと向き合う

— 命と平和を考える —

と題しての講演があった。



アーサー・ビナードさんの講演をお聞きして

羽曳野市 加藤 禎子

12月6日の先祖供養法会は、私の祖母・叔母と同じく、お大師様に一生おすがりして人生を終えた母のお礼参りでもありました。その日の講演に詩人のアーサーさんが来られるとお聞きし、期待にわくわくしながら参加させていただきました。

さすがに、20年以上も日本語の研究をされているアーサーさんのお話は迫力がありません。テーマも「自然」「動植物」「風物」「原発」「食の問題」と多岐にわたり、次々と泉のように湧いてくる言葉は私たちの心に真っ直ぐ伝わって参りました。

私が感動したのは、彼は文章を作る時、必ずその土地に行き全身で感じたことや調べた資料を元に言葉にされるという姿勢です。日本の北から南まで、特に福島へは何度も足を運ばれました。除染で放射能が最も強く残っているのは「苔」で、それは流しても決して消えることはないのですと説明された時、私は胸が痛くなりました。

現在も、若き日の彼の人生観を変えた「広島」に住んで「命の尊さ」を伝えておられますが、アーサーさんの人としての真面目な生き方に頭が下がる思いがします。

法会が終わった後、アーサーさんとの交流会に参加させていただきました。彼は宮澤賢治の『雨ニモマケズ』の絵本をあげて、私たちに「この本の腹わた(中心)はどこですか」と尋ねられました。答えは

『一日に玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ』という所だったのです。

農民として「土」とともに生きた宮澤賢治にとって、「玄米四合」や「味噌」や「野菜」は、農民が「生きる」「命の源」だったのです。

今までよりさらに深い『雨ニモマケズ』の読み方を教えていただきました。

ありがとうございました。 合掌

『雨ニモマケズ』(Rain Won't)、作・宮澤賢治、
英訳 アーサー・ビナード、絵・山村浩二、今人舎

四国八十八カ所

歩き遍路の

ちよつといい話

松山市

山本 益男

歩いているときは

いろんな事に出会うのよ……

その12

これまでの歩き遍路や日常生活でお寺をお参りする境内のなかで、人々が願う現世利益というものをずいぶん目にしてきました。その中で圧倒的に多いのは、「家内安全」「病氣平癒(びょうきへいゆ)」「商売繁盛」の三つだという気がします。もちろん合格祈願や良縁祈願などありますが、今の日本人が考えている願いごとは、おおむねこの三つに集約されるのではないでしょうか。すなわち家内が安全であり、健康で元氣であり、商売や仕事があまくいくことを願うわけです。

多くのお寺にある絵馬や掛札などを眺めていると、世の中にはこんなにくさんの願いごとがあるのだ、とあらためて実感させられます。これほど多くの人たちが、このけわしい山上までわざわざ登ってきて、願い事を書きつけて帰っていく。そういう人たちの思いに支えられてお寺は存在しているのだ、と思わずにはいられないわけです。こうした現世利益を願う庶民信仰を次元の低い宗教意識として頭から軽蔑する人々もいないわけではありません。しかし、庶民のこういう素朴な願いを無視したところからは、仏教あるいはお寺というものは育たないのではないのでしょうか。かみさんの影響でヨガの成立についてあれこれを聞いたたり、ブツダの關係本をチラ見することがよくあります。インドでブツダが教えを説き始めた時も、人々の日常的で世俗的な悩みや願いごとの、決して馬鹿にはしなかつたのではないかと思えます。(ブツダが出たついでに、このお寺の名前でもある転法輪という言葉を紐

解くと、ブツダが初めて仏教の教義(法輪)を人びとに説いた出来事を初転法輪といい、具体的には、ブツダが菩提樹で悟りを開いた鹿野苑で元の五人の修行仲間にも初めて仏教の教義を説いた出来事を指します。当初は誰も耳を傾ける者がなく、鹿だけが聞き入ったとする経典もあります。転じて、転法輪とは、仏が教えを説くこと。または説法を意味します。法輪は仏の教えを転輪王の武器である輪宝になぞらえたもので、転は説くことを示します。ちなみにインドの国旗を見て頂くと、国旗の中央には、この法輪がデザインされています。)

現在、日本には七万数千ものお寺があると聞きます。私がこれまで歩いたり、普段お参りしたお寺はそのごくごく一部に過ぎません。しかし、その百以上の中にも学問のお寺あり、修行のお寺あり、庶民信仰のお寺ありと、まさしく百寺百様の世界があります。ひとことに「お寺」といつても、数の上でもこれほどたくさんあり、宗派も異なり、

それぞれ違う顔をもっています。ちよつと人より多くお寺を訪れたからといって、そう簡単に何かをいえるものではありませんが、その奥深さに痛感させられます。

一回目のお遍路はただただ無我夢中、それこそがむしろに歩いていたいように思いますが、二回目の遍路を始めて（まだまだ途中です）、道中よく思うようになったことがあります。それは、よく日本人は宗教心がないともいわれません。しかし、その見えない「なにか」に対する信仰心はほとんどの日本人がもっているのではないかということに強く感じながら歩いてくるこの頃です。しかし、何が見えてきたかは、まだはつきりしていませんが、むしろこれまで見えていたつもりで、見えていなかったものにずいぶん気づいたところもあります。

徳島の南側に位置する日和佐では、トンネル出口にお遍路さん向けの休憩小屋があります。ある日そこでは、二人の若者（日本人と外人さん）と一人の老人が休憩をしていました。私は仕事中にはありましたが、しばしその様子をながめてかつての自分を回想していました。しばらく思い思いに休憩してしまいましたが、やがて休憩も終わり再び出発しようと二人の若者は立ち上がり、そして休憩した小屋に向かって合掌して出発して行きました。以前、書かせて頂きましたが、歩き遍路をして何が変わったかという疑問に対して「何にでも感謝したくなる」と書いたことがあります。日常の生活では、自分が休憩した場所（たとえば公園のベンチ）に向かって「ありがとう」の意味を込めて合掌、またはお辞儀するなんて事はありません。思えば、普通に歩いていればこの辺までは、歩き始めて四日目程度です。歩き遍路の場合、多くの人に支えられてここまで来た事をちよつと考えれば、やはり何に対しても頭を下げ、「感謝したくなる」のが道



日和佐にある遍路小屋 40号

理だと思えます。この二人すでに四日目くらいにしてやはり自分の中で何かが変わってきているのだと思います（全てのお遍路さんがそうとは言いませんが・）。こういった行為は、別に信仰心や宗教からではなく、自然と内から湧き出てくる何らかの感情を表現したに過ぎません。これを見てちよつと一年間試験勉強でお休みしていたゴールデンウィークの自分探しを来年は再開してみようかなと思う出来事でありました。

心に宝を—10—

「生きてこそ」

平成二十六年 正月

橋本市

宝形山 地藏寺

井上 覚 善

一年半位前に犬飼の地藏堂で水児供養をさせて頂いた時の事です。私より少し若い女性が、暗く思い詰めた顔で供養に来られました。お経をあげさせて頂いた後、女性の表情があまりに沈んでおられましたので、「私でよろしかったら、お話しただけませんか。」と声をかけました。すると女性は少し間を置いて、「実は今、自分が置かれている境遇が大変つらく、いくら頑張っても努力しても、夫や夫の両親にも認めてもらえず、自分の居場所が無く、このままだったら生きていてもしょうがないから死んでしまおう。そして死ぬ前に、以前に流産してしまった、本

当は生んであげたかった、我が子の供養だけはきちん済ませようと思ったのです。」と、ぼろぼろと涙を流しながらおっしゃったのです。

それを聞いて私はご供養に来られる方の思いの深さに、改めて一座の供養でも決して疎かにしてはいけません。そして心の闇にたとえ少しでも光が射すように、ところが和らぐように、真摯にあたらなければいけないと、強く思いました。

そして女性に「それは辛かったですね。よく今まで頑張つてこられましたね。でも、死んではダメですよ。死んでも解決はしませんよ。今、死んでしまったら、流産した子供さんも浮かばれませんよ。あなたが生んであげられなかった子供さんのことを本当に思うならば、生きないといけません。この世に生まれたかった子供さんの分まで生きることです。そしてどんなに今が辛くとも、また反対に、どんなに今が良くても必ず移り変わっていきますし、必ず誰しも死ぬ日がやってきます。

ですから、悩み過ぎることなく、樂觀し過ぎることなく、ポチポチと生きていきましよう。生きてこそ供養も出来るし、生きてこそ子供さんも浮かべられますよ。」と、お話しさせていただきました。

すると、それまで思い詰めておられたお顔が「ふわっ」と素敵な笑顔に変わられ、「はい。生きていきます。生んであげたかった子供の為にも生きていきます。今日、来て本当に良かったです。」と、涙を拭われました。

人間、生きておれば年相応に様々な悩みや苦しみがあります。それは、子供でも子供なりの、大人は大人なりの、老人は老人なりの悩みや苦しみはありますが、皆、移ろいゆく人生の大切な修行であります。艱難辛苦も樂しめたら最高ですね。

合掌



新春の行事

初大師

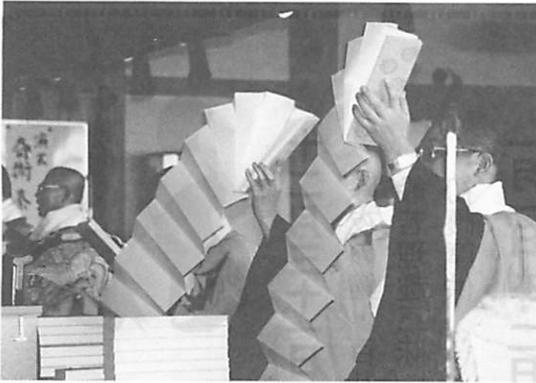
一月二十一日(火)

十時より

大般若経

六百卷

転読法要



堂内に響きわたる大般若経の大音声(おんじょう)



十一時半より

新春コンサート

尺八奏者(東京芸大卒)

辻本好美さん

尺八の幽玄な音色を

お楽しみに♪



初不動

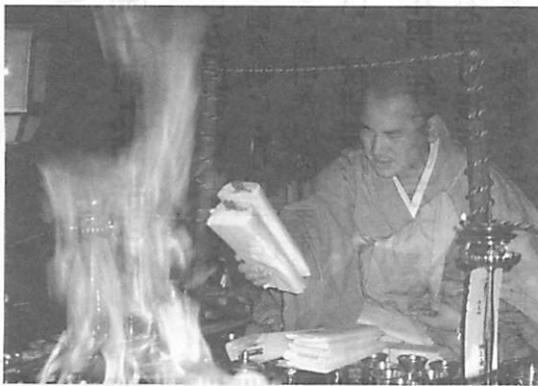
一月二十八日(火)

九時より

十二座護摩供

厄除開運・

善願成就の大祈祷



星祭り結願祭

二月三日(月)十時より

厄除のお札を

お渡ししますー



星祭祈願受付中

一年間の厄除け開運のためにご祈祷をお申し込み下さい。

初詣

十二月三十一日(火)夜十二時より

除夜の鐘・百八灯明の点火

般若理趣三昧

初護摩供

一月二日(水)・二日(木)

開運破魔矢

狩場明神御真影の授与

甘酒接待



お鏡開き

お鏡開き

一月三日(金)午前九時半より

法要

おたのしみ福引き(空くじなし)

篤志者の御奉納により、千名の方に

おたのしみ福引きがあります。

ぜんざい・鏡餅接待

午(ウマ)年男・年女の方大集合!

身代りお守り授与

白衣・袈裟・腕念珠をつけて九時までに
お集まり下さい。奉納された

鏡餅を切っていただきます。

1月3日(金)午前11時半より
新春落語

すずめ家
ちゅん助さん
来寺!!



揮毫 島岡芳山(五條市)

稲荷祭

三月五日(水)

十時より



諸願成就

家内安全

商売繁盛